

スポーツ医学科 大内 洋医師 世界水泳 日本代表のドクターに



7月23日(日)～30日(日)、ハンガリー・ブダペストで開催される「第17回世界水泳選手権大会(世界水泳)」に日本代表のドクターとして当院スポーツ医学科部長の大内洋医師が選出されました。

今大会では、チームの主将を務める萩野公介選手をはじめ、瀬戸大也選手、入江陵介選手、女子では最大10種目に出場する可能性もある高校生スイマーの池江璃花子選手など、注目選手が目白押しです。大内医師はチームに帯同し、各選手が高いパフォーマンスを発揮できるよう医療サポートを行います。

また、7月8日(土)～13日(木)に鴨川市で行われるラグビー女子15人制合宿では、服部惣一医師がチームドクターを務めることが決定しています。当院スポーツ医学科ではトップレベルのアスリートから週末にレクリエーションとしてスポーツを楽しまれる方まで広いレベルのスポーツ選手の医療サポートを行っています。

「女性スポーツ外来」はじめました

さまざまな競技で女性の活躍が目覚ましい昨今、女性アスリートが長期的に高い競技力を継続できるようサポートする女性スポーツ外来の重要性が全国的に認識されはじめてきました。

継続的な激しいトレーニングを続ける女性アスリートは、「low energy availability(利用可能エネルギー不足)」「無月経」「骨粗しょう症」のリスクがあり、アメリカスポーツ医学会や国際オリンピック委員会では、その予防や対応の重要性が強調されています。

そこで、当院では6月よりスポーツ医学科外来にて「女性スポーツ外来」を開設しました。日本体育協会公認スポーツドクターの資格を持つ産婦人科医の大内久美医師が外来を担当し、試合に向けた月経コントロール、無月経などの月経異常などのサポートを行います。外来日は第2月曜日の午後で、年齢や競技レベルを問わず、スポーツを行っている女性が対象となります。

競技人生の成功を長い視点で支えるためには、目に見えるケガの予防だけでなく、栄養摂取や月経についての配慮も重要です。どうぞ気軽にご相談ください。



福祉用具専門相談員 養成講習会のご案内

福祉用具にかかる専門的知識、技術をもって相談援助、適合等を行い、福祉用具導入後も適切な利用についてサポートできる「福祉用具専門相談員」を養成する講習会を下記のとおり開催いたします。

日 時	7月29日(土)～8月29日(火)の間 8日間(概ね9:00～17:00)
会 場	亀田総合病院 継続学習センター
内 容	講義・演習を含む50時間 その他、1時間程度の修了試験があります
受 講 料	27,000円(消費税込み・テキスト代金含む)
定 員	30名
申 込 締 切	7月7日(金)締切
申 込 方 法	①履歴書(市販 B4サイズ、写真貼付)、②医療・福祉に関する資格があれば保有資格の修了証明書等の写し、③返信用封筒(92円切手貼付、宛先記入)以上を下記までご郵送ください。 宛先 〒296-8602 鴨川市東町929 亀田総合病院 継続学習センター
選 考 方 法	書類選考後に受講決定通知書を発送いたします
お 問 合 せ 先	電話番号: 04-7099-1165(直通) 月～金 9:00～17:00

bayfm「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では、毎週火曜日午後3時すぎから、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

6月は救急看護認定看護師の奥協和男救急外来師長が出演します。ぜひ、お聴きください。



♪Early Summer Concert♪

6月17日(土)午後3時から亀田総合病院Kタワー1階ロビーにて、平岡忍さん(フルート)、石橋謙二さん(コントラバス)、永井理江さん(ピアノ)による「Early Summer Concert」と題したコンサートを開催いたします。

「愛のあいさつ」「亡き王女のバヴァーヌ」「アルルの女」などクラシックの名曲から、「芭蕉布」「糸」など皆さんも一度は耳にしたことのある曲を約1時間にわたって演奏いただきます。どうぞ、ご来場ください。

腎移植について

腎移植科 森川昌平

第7話 「慢性腎臓病とそれを起こす病気について」

わが国における血液透析患者数は2015年(平成27年)末の時点で32万人を超え、なお増加の一途をたどっています。原因疾患は糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症をはじめとする慢性腎臓病です。慢性腎臓病とは、「腎臓の障害」もしくは「腎機能低下」が3か月以上持続している状態のことです。「腎臓の障害」とは「蛋白尿」や「腎形態異常」を指し、「腎機能低下」とは「糸球体濾過量 60ml/min/1.73m²未満」を指します。

【尿検査について】

蛋白尿・血尿は尿を検査することで調べることができます。蛋白尿は尿中に蛋白がもれ出ている状態で、血尿は尿中に血液中の成分(赤血球)がもれ出ている状態です。(尿の色が赤くなくても、血尿の場合があります)。病気のない方は、通常尿中に蛋白や血がでることはありません。血尿が主に認められる場合は、尿路のがん、結石、膀胱炎などです。蛋白尿と血尿が認められる場合、糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎などの疾患が考えられます。

透析療法が必要になる方の原因は糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症が上位3つを占めています。今回はこの3つの病気について説明します。

【糖尿病性腎症】

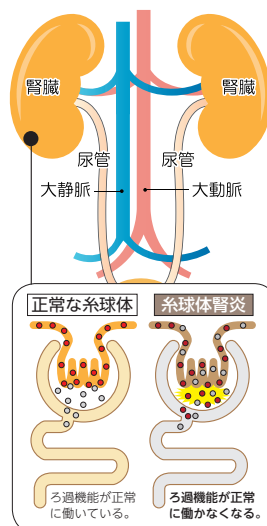
透析療法が必要になる方の40%以上は、糖尿病が原因です。わが国では、男性の約16%・女性の約10%が糖尿病とされているように、糖尿病は非常に頻度の高い病気です。糖尿病は、慢性腎臓病だけではなく脳卒中や心臓病、足壊疽の原因にもなります。慢性腎臓病自体も脳卒中や心臓病の原因になるため、糖尿病によって腎臓が悪くなると、全身に影響が及び、透析のリスクが増加するだけでなく、死亡のリスクも増加します。しかし、早期に発見して治療を行えば、病気の進行を遅らせることができるだけでなく、病気が治まる(寛解といいます)ことが知られています。

【慢性糸球体腎炎】

長期にわたり糸球体の炎症によって、蛋白尿や血尿が出

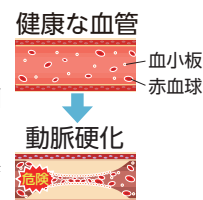
る病気を総称して慢性糸球体腎炎と呼びます。

慢性糸球体腎炎は1つの病気ではなく、さまざまな病気の総称です。慢性糸球体腎炎の中で最も頻度の高いものにIgA腎症があります。IgAは免疫グロブリンAの略称で、この抗体は、のどや気管支、腸などの粘膜を外敵から守っています。この障壁が弱いと、粘膜に感染した病原体の一部とIgAが免疫複合体を作って血液中に入り、腎臓に流れ着きます。腎臓の糸球体のフィルターにひかかると、ジワジワと炎症を起こして組織を破壊していきます。IgA腎症では血液中のIgA濃度が高くなることがあります。IgA腎症は20代前半に発病のピークがあります。



【腎硬化症】

腎硬化症は高血圧の影響で腎臓にある細動脈が動脈硬化を起こし腎臓病にいたる病気です。腎臓と血圧は密接な関係があり、腎臓の機能のひとつが血圧の調節です。腎障害があると、血圧の調節機能が障害されるため、腎臓と血圧との間で悪循環が形成され腎障害をさらに悪化させます。また、正常な腎機能の方でも高血圧を適切に治療しなければ慢性腎臓病となり自覚症状に乏しいまま腎障害が進行する危険性があります。



【最後に】

慢性腎臓病は、糖尿病、高血圧、喫煙、高尿酸血症など生活習慣と関連しており、その発症進展予防には食事管理、適度な運動、禁煙といった生活習慣の是正が大切です。さらに、早期発見し早期治療すれば寛解する場合があります。尿検査で異常を認めたら病院での精査が必要です。慢性腎臓病も検査を受けないと、状態を把握することができません。危険因子(血縁者に糖尿病の方がいる・肥満・運動不足・喫煙習慣・過量の飲酒・高血圧など)がある方は、生活習慣を改めるとともに、必ず健康診断を受け早期発見に努め、異常があればすぐにかかりつけ医や当院に相談してください。

第8話では、レシピエント移植コーディネーターについてお話をしたいと思います。

医師紹介

かるまい としゆき
軽米 寿之

医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①集中治療科(医長)
- ②救急医学, 集中治療医学
- ③料理, 読書
- ④患者さまの回復の一助となれるよう頑張ります



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>